



8月26日(木)
2010年(平成22年)

先日、神戸市社会福祉協議会のホームページのリニューアルを担当させていただいた。それは福祉とは何かを真剣に考える機会となった。「福祉」と聞くと、自分とは遠いものだと感じる方が少なくないように思う。立場の違いを超えて一人ひとりの居場所をつくり、人とつながることで新しい気づきの世界が広がるものにしたと、構成とデザインを考えた。

時代から変化し、深い人間関係や、独自の体験を通じた学び、知識の蓄積などを求める人が増えると考えられる。



星加ルリコ

福祉協議会のホームページでアクセシブルなもの一つに「ボランティア」のページがある。若年層もシニア世代も、何か社会の

年年歳歳

役に立ちたいと考えている。しかし、実際に活動に参加している人はまだ少ない。

理由は、初めの一歩が踏み出しにくいからだ。そのため、分かりやすく親しみ

私は日々の仕事の中で、福祉のみならず、デザインを加えることでより人々の

関心を引きつけ、新たな発展が期待できる産業がたく

さんあると痛感している。農業、漁業、林業、医療、

神戸は、震災を経験し、復興の中で人や地域とのつ

ながりを創り、日本に「ボランティア元年」をもたら

した。その経験や先進的なノウハウを世界中の都市や

福祉にデザインで光を当てる

やすい構成とデザインに一新し、職員も更新に積極的に参加できる仕組みを作った。神戸にゆかりの深いオピニオンリーダーの

声も取り上げて掲載している。

教育……まだまだある。見せ方を魅力的にするだけ

めたり、後継者を増やす受け皿を作ったり、仕組みのデザインもしていくことが

立ちができれば、神戸にも情報もさらに集まってくる

（ほしか・るりこ 企画・デザイン会社社長、神戸市商工会議所デザイン都市推進委員会副委員長）